

自己評価報告書

令和5年度 中央区立晴海学校 自己評価報告書

中央区立晴海中学校 所在地：東京都中央区晴海1丁目5番3号

校長名：藤江 敏郎 副校長：三上 健二郎

生徒数543名（1年185名、2年192名、3年165名）学級数16

教職員数 教員31名 都講師2名 区講師6名 ALT 1名 栄養士1名

主事3名 スクールカウンセラー2名 スクールソーシャルワーカー1名

特別支援教室専門員1名 心の教育相談員2名 図書館指導員1名

学習指導補助員7名 学校業務支援員1名

1 重点目標の達成状況及び取組状況

重点目標1 生徒の学習意欲を高め、確かな学力の定着を目指す教員の授業力の向上

①充実した指導計画（シラバス）の作成と活用

- ・教員は、年度当初に必ず年間計画を立てることを徹底し、1年間を通してどのように授業を進めていくのか確認している。
- ・学校評価アンケートにおいて、生徒・保護者ともに、90%以上が、教員は計画的に授業を進めていると回答しており、成果が出てきている。
- ・各教科の評価の方法を、年度当初の授業で必ず生徒に説明するように徹底した。どのように評価されているのか理解することで、生徒の学習意欲を高め、授業への積極的な参加へとつながっている。
- ・生徒の「③授業の内容はよくわかりますか」では、90%以上の肯定的な回答で、保護者の「③学習内容がわかりやすく校風された授業をしている」でも80%以上の肯定的な回答だった。計画的な指導計画とともに、日々の授業内容も計画的に組み立てることでわかりやすい授業づくりをするようにしている成果が出ている。

②基礎学力の定着

- ・学校評価アンケートの「② 個に応じた指導を徹底し、生徒の基礎学力が身に付くように教えている」において、教員は肯定的な回答が100%となり、授業を計画的に進めるとともに、生徒それぞれに合った指導を工夫して実践していることがわかった。同質問において、生徒は90%以上の肯定的回答だった。教員の個に応じた指導と基礎学力の定着が結果に表れてきている。
- ・同アンケートの「③学習内容を工夫し、生徒の学習意欲が向上するような授業をしている。」の質問では、教員が100%、生徒が90%以上肯定的な回答をしている。教員

の日々の教材研究や管理職による授業観察後の適宜指導が良い結果となって返ってきている。

- ・同アンケートの①～⑥において、保護者も肯定的回答が多数を占めるものの、教員・生徒の回答よりも約10%程度低い結果となっている。特に、「⑤生徒に家庭学習の習慣が身につくような働きかけや指導の工夫をしている。」については、保護者の肯定的回答が52%となっている。教員は、多くの教科で家庭学習を促す課題を出しているが、家庭学習の習慣が定着するような工夫が必要である。

③教員の指導力向上

- ・教員はICT支援員を活用し、生徒のタブレット端末を使用した新しい授業の方法を研究している。生徒同士の話し合い活動や、発表、意見の共有などを、生徒自身がタブレットを使用して取り組む活動を取り入れている。
- ・各教科の特性や教員によって、ICTに関する授業内容には差があるが、ICTを活用した授業展開は年々増えている。
- ・同じ教科だけでなく、教科を越えて授業観察を行ったり、授業展開や指導方法についてOJTによる助言・研修を実施したりしている。教員の指導力向上につながっている。
- ・授業展開や指導方法はもちろん、指導と教科の一体化を掲げ、適切な評価が行われるように教員間で確認している。

④積み重ねの学習指導の工夫と場の設定

- ・朝学習での振り返り学習、定期考査前の質問教室、夏季補充教室等を通じて、基礎・基本の学力定着を図る場を複数設けた。
- ・学校評価アンケートの「⑥モーニングタイムの朝学習や放課後の質問教室など学習機会を通じて生徒の学習意欲の向上に役立つようにしている。」の質問において、生徒と保護者の肯定的回答が80%に届かなかった。生徒個人の習熟度の把握と、それに応じた指導の工夫が必要である。また、授業以外での学習課題の設定や、学習機会の提供を工夫する必要がある。

⑤各種検定への挑戦

- ・各学年で、1年生が漢字検定、2年生が英語検定、3年生が数学検定を全員が受検した。各学年で、各生徒に検定の受験級の目標を計画させている。予め、受験級を決めさせて、その目標に向けて主体的に学習に取り組む姿勢を持たせた。目標の実現に向けて、生徒たちが努力する姿が見られた。

重点目標2 生徒の活躍の場を意図的に増やし、生徒を鍛え、充実した3年間を過ごす

①学校生活の基盤である環境整備

- ・新型コロナウイルス感染症が5類になったことを受け、行事や学習活動についても通常通りの内容に戻った。運動会や合唱コンクールにおいて、生徒一人一人が活躍できるように、各クラスのリーダーを中心に一致団結して取り組む姿勢を指導した。
- ・3年生の努力している姿を、1・2年生に見せ、自分たちでよりよい晴海中学校を作り上げていく意識を持たせた。
- ・学年を越えて、自助・共助の精神を磨き、3年間を通して充実した学校生活を自分たちの力で作り上げていくことを指導している

②生徒の成長と人権教育の推進

- ・授業や学校生活の中で、生徒たちの多様性について指導する機会を増やした。制服も、男女関係なく選択して着用可能とし、校則の見直しを行った。
- ・生徒の心の持ち方は、人それぞれであり、感じ方も違うことを、生徒だけでなく、教員にも確認した。生徒への声のかけ方や、指導方法についても、生徒の実態を把握し、適切に行うことを確認した。
- ・学校評価アンケートの「⑩教育活動において人権を尊重する姿勢で生徒の指導にあっている。」の質問では、教員の肯定的回答が100%と、昨年に比べて大きく向上した。生徒の回答も肯定的な回答が90%を越えた。教員の人権感覚の変化が結果に表れている。
- ・同アンケートの「⑨学習や部活動、行事によって生徒の努力を認めたり励ましたりして、学校生活が充実するような指導をしている。」の質問では、教師は100%、生徒87%、保護者79%と肯定的な意見が大多数となった。生徒と教員は毎日連絡帳の日記欄を通して、情報交換を実施しており、活躍したことについては褒め、心の変化やトラブルなどがあれば早期発見して対応するなど、生徒の学校生活の充実に努めている。
- ・同アンケートの「⑧生徒が規則やきまりを守って生活するように指導している」の質問では、教員、生徒、保護者の肯定的回答が90%を越えた。毎日元気よく、教員自ら

積極的に挨拶を実施したり、規則正しい生活を心がけるように指導したりしている。
生徒たちは、自らルールを守り、自治能力を身につけてきている。

2 重点目標以外の自己評価における達成状況及び達成のための取り組み状況

<家庭や地域との連携>

- ・学校便り、学年便り、保健便り、図書便りなど、生徒たちの学校生活について情報発信している。Google クラウドルームやテトルなどの ICT を活用し、効率よく、幅広く配信することで、保護者に学校のことを知ってもらう工夫を実施している。
- ・学校アンケートの「⑰各種たよりやホームページ、学校公開等により、学校の様子を家庭にしっかりと伝えている。」の質問では、教員、生徒、保護者のすべてで肯定的回答が80%を越えた。運動会や合唱コンクールの学校行事では、保護者の入場制限をなくして多くの方に生徒の活躍を見ていただいたり、Live 生配信を行い家庭からも視聴できたりするようにしたことが良い結果につながった。
- ・同アンケートの「⑱地域や家庭との連携や協力体制を十分にとり、地域の学校を目指して工夫している。」の質問では、教員、生徒、保護者のすべてで肯定的回答が80%を越えた。
- ・11月には地域防災拠点訓練を実施し、中央区防災危機管理課、月島第三小学校、地域のタワーマンション5棟、臨港消防署と協力して訓練を行ったことで、生徒たちの自助・共助の精神が磨かれた。
- ・教員、保護者、地域の方が参加するPTAソフトバレーボール大会、ソフトボール大会の2大会で、協力して練習を積み重ね、両大会で優勝を果たし、団結力が強まった。
- ・保護者と地域の協力体制はとても強く、学校、家庭、地域が一体となって生徒を育てている。生徒自ら進んで手伝いをするなど、災害時には積極的に協力できる姿勢を身につけた。

3 今後の改善方策

(1) 学習指導の改善

- ・学習力サポートテストの結果を分析して、習熟度の低い分野を抽出し、授業で再確認することで、基礎・基本の学力の定着を図る。

- ・各教科で主体的、対話的で深い学びを取り入れた授業展開を工夫し、言語活動を多く取り入れて思考力・判断力・表現力等の育成に取り組む。

- ・教員の働き方改革を進めながらも、質問教室や補充教室を工夫して実施する。

(2) 生徒の生活面の改善

- ・クリーン運動に積極的に参加するように呼びかけて参加者を増やし、ボランティア精神を養う。地域の行事やボランティア活動などに教員自ら参加して、共助活動の大切さを生徒たちに伝え、積極的に参加するように呼びかける。

- ・人権についての校内研修を実施して教員の人権感覚をさらに磨き、男女平等の徹底や生徒の少数意見にも耳を傾ける体制を整える。

(3) 教員の指導体制の改善

- ・学年や分掌を越えた協力体制を構築し、教員の子育て等家庭の事情や病気による急な休暇に対応できるようにする。

- ・生徒指導は、学級担任と他1名以上の複数の教員による指導を基本とし、状況に応じて学年主任が参加して適切に指導する。

- ・教員の教科以外の校務の量が偏ることがないように、管理職、各分掌主任が割り振りを行い、適切に業務遂行ができるように常に監督する。